

第1回御前崎市学校再編検討委員会会議録

日時 令和3年9月27日（月）午前9時30分開会
場所 御前崎市役所 3階 301会議室

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 ・趣旨説明及び今後のスケジュールについて
・現状・資料の説明
- 4 教育環境をとりまく現状と今後について
・常葉大学 堀井啓幸 教授
・静岡大学 武井敦史 教授
- 5 閉 会

第1回御前崎市学校再編検討委員会 出席者及び欠席者

御前崎市学校再編検討委員 11名（欠席1名）

御前崎市教育委員会教育長 河原崎 全

御前崎市教育委員会事務局

教育部長 長尾詔司

教育総務課長 高田和幸

学校教育課長 鈴木秀和

学校教育課指導主事 澤入基裕

教育総務課係長 川村美穂

教育総務課係長 坂本浩長

1 開 会

○司会（教育総務課長 高田和幸） 最初に、互礼を交わしたいと思いますので、御起立をお願いします。お願いします。御着席ください。それでは、第1回御前崎市学校再編検討委員会に当たりまして、最初に教育長より御挨拶を申し上げます。

2 教育長あいさつ

○教育長（河原崎 全） 改めまして、おはようございます。今日は、週のはじめの早朝より、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本日、第1回の御前崎市学校再編検討委員会ということで、皆さんにお集まりいただきました。常葉大学の堀井先生、静岡大学の武井先生にまたこれから御指導いただきます。よろしくお願ひしたいと思います。

学校再編ということですが、今、御前崎市に限らず、全国あらゆるところでこれが話題になっています。近くでも、お隣の牧之原市も、掛川市もそうです。菊川市も中学校区を単位とした学びのグループを検討しています。また、小中学校だけではなくて、皆さんもご存じのように、地元の池新田高校と横須賀高校が、あと数年後に一緒になるということで、高校も県内各地で再編等を進めまして、一時は県内に高校が100校あったのですけれども、最終的には80校くらいになるような時代の流れと言いますか、簡単に言えば、子供たちの数が減ってきていることと、その状況下での教育内容の充実、施設の問題、そういうものを含めながら、各自治体の中で検討が進められているということでございます。

当市におきましても、今回、この再編検討委員会がスタートしますが、再編の歴史がございます。今日の資料の7ページを御覧いただくと、いままでの学校再編の流れが図になっています。当市は、旧御前崎町と旧浜岡町が平成16年に合併しましたが、それぞれの町で、学校のあり方もそれぞれの歩みをしてきました。旧浜岡でいえば、旧の6つの村の各地区に小学校があったわけです。私は、朝比奈ですから朝比奈小学校の卒業ですけれども、私が卒業して数年後に浜岡北小ができました。その頃のことを思うと、私は学年2クラスあったのですけれども、子供の数を考えると、私が卒業してから数年後に1クラスになるというような流れでした。恐らく、朝比奈小も新野小も比木小も高松小もそうだったと思うのですが、各学年1クラスになっていくとクラス替え等ありませんし、そういう中で子供たちが育つというのはどうなのだろうかということで、それぞれ東小、北小、それと高松小が池新田小と一緒に第一小というような流れがあったのではないかと想像しています。その分、学校の規模は維持されたのですけれども、各地区に小学校がある。その小学校の近くには公民館があり、農協があり、文房具を売っているお店があり、駐在さんがいて、というような、1つの地区のセンター的なところがなくなってしまいました。

また、旧御前崎は、御前崎小、白羽小、これは地区の小学校が残ってきているわけですが、もう1つ、この図にありませんが、牧之原市に地頭方小がありまして、その地頭方小も1つになって、御前崎中学校が構成されています。2つの自治体で協力して学校運営する場合、学校組合というものをつくって運営しているものですから、学校組合立の御前崎中学校があるわけですが、今回、牧之原市が学校再編をするということで、地頭方小は旧相良町の関係の中学校へ移っていくという方向になっています。ですので、今、御前崎小、白羽小、地頭方小の3つの小学校から御前崎中に子供たちが来ていますが、牧之原市の子供たちがいなくなると学校組合の必要がなくなるものですから、今度は御前崎市立としてどのように、御前崎、白羽の中学生に学んでいただくかということが1つのポイントとなっています。このような流れが、旧御前崎にもあるものですから、その辺りも含めてのことになります。

両方の学区に共通しているのは、子供たちの数が減っていることがあります。また、最初に申し上げた旧浜岡ですけれど、学校ができたのが昭和 50 年前後ですから、もう 40 数年たっています。校舎も当然古くなってきているものですから、どのように施設の修繕維持をしていくのかということも大きな問題になっております。このようなことを含めまして、この委員会の中で、学校が子供たちのためにどうあったらいいのかとか、地域としてどうあったらいいのかなど、自由に皆さんのお話をお伺いできればいいなということです。この委員会で全て計画を決定するということではありませんので、それぞれのお立場の方、各地域の方から御意見を伺っていきたくて思っております。また今日は園の保護者の方にもたくさんお出でいただいておりますので、これから皆様の子供さんがまたかかわってくるという話になるものですから、ぜひ遠慮なく御意見をいただければありがたいなと思います。長丁場の対応になりますし、またいろいろお世話になりますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

3 趣旨説明及び今後のスケジュールについて

現状・資料の説明

○司会（教育総務課長 高田和幸） ありがとうございます。それでは次第に沿いまして、進めていきたくて思ひます。教育長からも一部、趣旨説明がされましたが、最初に趣旨説明及び今後のスケジュールについて教育部長から御説明いたします。

○教育部長（長尾詔司） みなさん、おはようございます。ただいま教育長から説明がありましたので重複しますが、再度説明させていただきます。この資料にありますように、8、9ページにも、先ほど教育長から説明がありましたが、現在の各学校施設は老朽化が進んでおります。多くの施設が、建設から40年前後経過しております。現状は、校舎などの修繕、改修を長期的観点から工事時期を検討し計画していく中、同時にもう1つ大切なことを考えなくてははいけません。子供の減少に対応した学びの環境を整備していく必要性があります。そのためにこの度、皆様にお集まりいただき、学校再編への検討会を進めることとなりました。再編計画をつくるためには、その基礎となります基本的な考え方、方向性をまとめていく必要があります。皆様には、PTA保護者代表、各地域の代表、校長先生の代表としまして、出席していただいております。市に皆さんが求める教育環境、学校像を、様々な御意見をいただひて参考にして考えていきたくて思ひます。特に皆様には、周りの保護者、そして地域の方々と、このような課題を言っていたきながら、ざっくばらんな意見をたくさんいただひて、この場にかしていただければと思ひます。また、資料の2ページにありますが、今回、この検討会の中で、主に皆さんと話し合いを行っていく内容でございます。今年度は、望ましい学級クラス、規模、通学時間など、各項目について、皆さんの意見を伺いながら進めてまいりたいと思ひます。当然、このほかにも、様々な意見があると思ひますので、その都度、皆様に考えや意見を出していただければありがたいと思ひます。また、スケジュールにつきましては、1ページにございますが、本日が第1回、第2回が11月15日となっておりますが、第2回以降、それぞれ、1月、3月、6月、8月と、検討会議を重ね、皆さんに御意見をちょうだいいたしながら、また皆様については、その都度、保護者の方にはもちろん、子供の送迎時などの機会をいかしながら、このことについて社会、地域などで話題にさせていただき、たくさんの様々な意見をこの場でお話いただくことを参考にして、基礎となる計画を進めて参りたいと思ひます。本日は、また、大学の先生のお話もありますので、それも参考にしていただひながら、地域や保護者会に帰って、また今回の話題を皆さんに提供していただき、今後の市内の小中学校の環境、そして教育環境がますます向上するようによろしくお願

いたします。少し長丁場となりますが、ぜひよろしく申し上げます。

○司会（教育総務課長 高田和幸） それでは、資料の説明をさせていただいて、本日はその後、大学の先生からお話を伺いながらということで、最初の1回目ですので、こういうことがあります、こういう問題を御前崎市は抱えていますといったことを皆さんと共有しながら進めていきたいと思えます。従いまして本日は皆さんに何か発表していただくようなことはありませんので、気楽な気持ちで聞いていただけたらと思えます。それで本日お話ししたことを、幼稚園や保育園の送り迎えの時やお母さん、お父さんが集まった時にでも「こういう話をしています。あなたどう思えますか、私はこう思えます」といった話を集約していただいて、次の会議でこういうことを言っている方がいましたということをお話ししていただけたらありがたいです。

では最初に、牧之原市は既に学校の再編計画というものを出してあります。それについての資料が、後ろの牧之原市というインデックスのページになります。この辺の流れを少し説明させていただいて、御前崎市の今の状況の説明をさせていただきたいと思えます。

牧之原市につきましては、平成30年2月に『望ましい教育環境のあり方について』ということについて教育長から諮問という形で問題を投げて、平成30年12月に委員会から答申をしています。内容としましては、平成27年の総合計画、教育大綱、28年の公共施設マネジメント基本計画を受けて、小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため小中学校再編計画を策定するという形で進んでいます。これを受けまして平成31年3月に教育委員会から『望ましい教育環境のあり方に関する方針』というものを出して、この中で2030年を目標に義務教育期間で次代を切り拓くことを目標に、9年間の学びを統計立てて学びの循環を作る事、キャリア教育を軸として小中一貫教育を実現するという方針を教育委員会が出しました。更にこれを受けて、今から説明します資料にあります『これからの学校を考えよう』ということで牧之原市が令和2年度に委員会を立ち上げて検討した内容を教育委員会に報告したものがこちらになります。これは牧之原市が広報まきのはらに載せた内容となっております。中に書いてある内容につきましては、牧之原市が地頭方小学校を含め津波被害想定区域内に学校が存在しています。こちらの建て替えをする場合には、移転先を考えなければいけないし、御前崎市と同じように人口の減少ということもござります。それを考えたときに、小中一貫校として大きな学校を1つ効率的に作りたいということで、榛原地区と相良地区にそれぞれ小中一貫校2校でやっていきたいという内容でござります。開設の時期は、先程言いましたが2030年。今から8年後となります。その時には少なくとも御前崎中学校学区にある地頭方小学校は、相良の小中一貫校の方に異動する可能性があるということで、資料5ページの下の方に地頭方地区は学校組合だということ、御前崎市と協議することが必要だということが書かれています。用地の選定をして、用地買収を行って、整地して、工事をしていくということですので、牧之原市としては来年度から事業がスタートしていくと思われま。

このようなことを受けまして、御前崎市としても地頭方小学校の絡みもありますので、御前崎中学校のことをどう考えていくかということも含めて再編計画をしていくということを考えています。そのために基礎資料として、いろいろな項目の皆さんの意見を伺いたいということです。

牧之原市が先行して進んでいますが、ここについて牧之原市は御前崎市と若干違っていて、1番古い所では昭和30年代に建てた校舎が存在しています。御前崎市はだいたい40年くらいたった校舎、牧之原市は50年から60年経った校舎がありまして、そちらを建て直すにはどうしたらいいかということで取り掛かりが御前崎市よりも若干早いということです。タイミングとしては御前崎市は40年しか経っていないので、校舎は大体60年から80年使えるということですのでまだ大丈夫ですが、子どもの数を考えると減っていますので、その前に教育環境ということで、校舎よりも子供の数で考えていく必要があるだろうということで、今回の話し合いをスタートさせた次

第であります。

それでは、この中の資料につきまして、担当の坂本から御説明をさせていただきます。

○教育総務課係長（坂本浩長） 学校再編計画検討委員会事務局の教育総務課、坂本と申します。よろしく申し上げます。

3ページをお願いします。学校再編検討委員会の委員名簿となります。お隣の方を知らない方もいると思いますので、常葉大学、堀井教授から自己紹介をお願いします。

[各自自己紹介]

以上の皆さんに市内各地区を網羅するかたちで、学校再編検討委員会の委員をお願いいたしました。よろしく申し上げます。

先ほど、長尾教育部長から資料1ページに基づいてスケジュールの説明がありました。年度をまたぎ長期の検討となっていきますが、よろしく申し上げます。

今回、1回目の会議ですが、次第のとおり、私どもから現状、資料の説明をさせていただき、その後、堀井教授、武井教授からお話をいただきます。

第2回は、学校規模として、1学校のクラス数、1クラスの人数（下限値）について御意見をいただき、第3回は、令和4年1月の開催を予定し望ましい通学時間、各区の考え方について、第4回は、令和4年3月の開催を予定し、施設としての学校に必要な機能、設備等について御意見をいただきたいと考えております。委員の皆様におかれましては、お子さんの送り迎えや行事等で、親御さんと接する場面があると思いますが、今検討会でこんなことを話し合っているよ、あるいは、次回こんなことについて話をするよといった感じで話題とし、周辺の意見を聞いていただき、この場で御自身の意見とともにお聞かせ願いたいと思っています。

令和4年度に入り、6月くらいに1～4回の話をもとめたものを形とし、市民公聴会、意見交換会を実施したいと考えています。9月を目途に市教育委員会の素案を作成し、議会報告等を経て、12月頃 御前崎市学校再編計画を策定したいと思っています。

4ページ、5ページは、この学校再編検討委員会の設置要綱となります。資料6ページ以降は、現状の説明資料となります。以降、私の説明が続きますが、資料を見ながら一緒に確認をお願いします。

6ページA3の市全図を御覧ください。御自身がお住いの学区以外についても確認していただければと思います。御存知の方も多いと思いますが、御前崎市には現在、小学校が5つ、中学校については、牧之原市地頭方地区の子供も通っている学校組合御前崎中学校を含めて2中学校が存在しています。地図の右側から、旧御前崎町御前崎地区、茶色のエリアが御前崎小学校区、その隣、旧御前崎町白羽地区、灰色のエリアが白羽小学校区、続いて、紫のエリアここからが旧浜岡町エリアとなり佐倉地区、比木地区からなる浜岡東小学校区、その左、西隣の赤の部分が第一小学校区となり、池新田地区、高松地区が所在します。北側、黄色のエリアが浜岡北小学校区となります。こちらは朝比奈地区、新野地区の構成となります。各小学校の所在地は黒丸、中学校は黒四角で表示してあります。黄色、赤、紫の旧浜岡町地区のみなさんは池新田地内に所在する浜岡中学校へ、灰色、茶色の旧御前崎町地区のみなさんは牧之原市地頭方地内に所在する御前崎中学校へ通っています。

7ページ、学校統合の歴史を御覧ください。表の上が浜岡側となりますが、昭和30年に浜岡、御前崎両町とも町村合併を経ています。池新田町と佐倉、比木、朝比奈、新野が合併をし、浜岡町が生まれております。その流れも関連しまして、浜岡中、浜岡東中、浜岡北中が統合し、昭和

33年に浜岡町立浜岡中学校が誕生しております。1番上、昭和45年には池新田小と高松小が統合し、浜岡町立第一小学校が生まれ、昭和50年には佐倉小と比木小が統合し、浜岡東小学校が生まれ、昭和52年には新野小、朝比奈小が統合し、浜岡北小学校となっております。旧御前崎町側は、旧御前崎村に御前崎小学校、旧白羽村に白羽小学校が所在し、校舎の場所は変わりながらも町立、町立、市立の御前崎小学校、白羽小学校として存在してきました。また昭和45年に当時の御前崎町と相良町で学校組合を設立し、御前崎中学校が誕生しています。昭和30年に白羽村と御前崎村の合併、そして全体として平成16年に御前崎町と浜岡町の合併を経て、現在の御前崎市となっております。

8ページをお願いします。こちらは各学校の施設としての状況一覧となります。上から、第一小学校は、途中、耐震補強工事等を挟んでいますが、南棟は41年、北棟は31年が経過した建物となります。1番下の屋内運動場は体育館になります。こちらは42年経過しています。浜岡東小学校は、両サイドの継ぎ足し建築を除くと45年が経過しています。浜岡北小学校は、北棟、南棟とも42年が経過しています。浜岡中学校は、校舎の建て替えを行い、この3月から新校舎で授業を行っています。体育館については36年が経過しています。

9ページにまいります。御前崎小学校は、西側の建物が建設から39年経過し、東側の普通教室がある建物は平成17年に建て替えを行っています。白羽小学校は、北棟は40年が経過し、南棟は平成15年に建替えを行っています。御前崎中学校は、北棟、南棟とも48年が経過しております。

どの学校も途中で耐震補強工事や大規模改修を行っており、躯体と呼ばれる建物の構造、耐力には問題無いという診断は受けております。しかしながら、建物の老朽化による不都合箇所は、経年により増えており、修繕箇所、費用とも増加しております。現在は、上水道から、管の布設替え工事を行っている最中です。この建設年度が似かよった学校施設を、5小学校2中学校のまま維持管理していくのか、はたまた別の形で形成していくのか、そしてその別の形といった時それはどんな形になるのかということもこれからの課題ということになってきます。

10ページ、11ページの通学状況については、教育総務課川村係長から説明を致します。

○教育総務課係長（川村美穂）

教育総務課の川村と申します。市内の通学状況について、説明をさせていただきます。資料の見出し、施設状況の次のページ、10ページを御覧ください。

はじめに「スクールバス」での通学について御説明いたします。小中学校では、浜岡東小学校、浜岡北小学校、浜岡中学校、園関係ではさくらこども園、北こども園において、市が業務委託を実施してスクールバスを運行しています。対象者は資料にある通り、在籍する全員ではなく、一部地区に限定されています。令和3年度の利用者数は、浜岡東小学校30名、浜岡北小学校47名、浜岡中学校11名、さくらこども園8名、北こども園20名、合計が116名です。

続きまして、「通学定期バス」での通学について御説明いたします。第一小学校に通う合戸地区の児童は、路線バスを通学に利用することが可能であることから、スクールバスではなく、しずてつジャストラインの路線バスを利用して通学しています。定期券は、市費で全額を助成しています。ただし、家庭の事情で地区指定よりも遠いバス停を利用したい場合などは、差額を実費御負担いただいています。令和2年度の利用者数は45名です。

スクールバスも通学定期バスも、学校統合時の取り決めにより、バスを利用する地区が決まった経緯がありますので、通学の距離や時間による明確な基準はありません。バス以外の通学にあたる地域では、安全に配慮して防犯灯を設置するなどの対策を行っています。

次に、自転車通学について御説明いたします。自転車通学は中学校で規定されていますので、浜岡中学校と御前崎中学校で、それぞれ通学距離が2kmを超える生徒が対象となっています。令

和3年度の自転車通学者は、浜岡中学校298名、御前崎中学校267名です。

最後に徒歩通学者について御説明いたします。バス、自転車での通学対象にあたらない児童生徒が徒歩で通学をしています。中学生は、学校から2km以内ですが、小学生は地区指定のため、それぞれ状況が異なっています。令和3年度の小学校における徒歩通学の片道における最長の距離と時間は、御前崎小学校で1.2km、25分、白羽小学校で3.0km、35分、第一小学校で4.0km、50分、浜岡東小学校で3.3km、50分、浜岡北小学校で4.1km、50分から60分となっています。御前崎小学校が他校に比べ短距離ですが、長距離になる通学区域もあるが、少子化によりこの地域から通学する児童がいないためであると学校より説明がありました。

市内の通学状況については以上です。

○教育総務課係長（坂本浩長）

12ページをお願いします。市内の6歳から11歳の子供の数を地域別に表した数字、表となります。例えば、現在の令和3年の数字を見ますと、左から第一小学校区629人、北小学校区116人、東小学校区294人、御前崎小学校区203人、白羽小学校区255人というふうに見ます。12ページ左側の表の1番下（H17→R3）減少率の欄を見ますと、第一小、浜岡東小学校区と浜岡北、御前崎小、白羽小学校区では減少率にも差があり、市内でも減少率に地域差が見られる状態かと思えます。右側はそれをグラフ化したものです。いわゆる右肩下がりの形であり、学齢人口そして市の人口自体も、人口減少という状態ではあります。

13ページから15ページは、学校としてとらえた生徒児童数と学級クラス数の推移を表したものです。全体の傾向としましては12ページと同様ですので省略します。

その後ろに綴じ込みをさせていただきましたのは、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」ということで38ページ構成となっております。私どもがこれからの検討会で話し合いたい内容、項目についての手引きとなります。文部科学省発行の手引きですのでコメントが難しいのですが、国全体として見た時の学校等の適正規模、適正配置について記されており、また一方でそこには地域の実情、今この現状、事実をどう捉え、考え方の物差しをどう置くのかということだと思います。ただ、再編の形そのものや個別の項目について考えるとき、こういう所に着目してくださいね、こういう所に目線を置くところですよといったところは記されていますので、また皆さんも読んでいただきたいですし、以降の検討会においても見ていきたいと思っております。

以上長くなりましたが、私の説明とさせていただきます。

○司会（教育総務課長 高田和幸） 続きまして、市内各小中学校の概要について鈴木学校教育課長からお願いします。

○学校教育課長（鈴木秀和） よろしく申し上げます。この冊子の中の学校概要というタグがあります。そのあとに小中学校というタグがあるのですが、その小中学校のタグの後に各学校の学校要覧というものがついています。詳細につきましては、この学校要覧を見ていただくといろいろなことが分かるわけですが、私からは、この中から抜粋をさせていただいて、各小中学校の特徴的なことなどを少し説明させていただきます。学校概要というタグのところに、私の説明するポイントを少し載せてありますので御確認ください。

まず御前崎小学校ですが、「ほっかりいっぱい、みさきっ子」という学校教育目標で、学校運営をしています。御前崎小学校の1番の特徴は、やはり、アカウミガメの飼育を小学校5年生が受け入れて放流をするというのが、昭和52年から学校の伝統として続いています。この取組がず

っと続いているものですから、このアカウミガメの飼育を通して、思いやりの心や、生命尊重の心が育まれていると思います。大変のびのびしている明るく素直な子供たちが多いです。逆に、強さやたくましさの育成が課題だというふうに学校は捉えています。

続いて、白羽小学校の学校教育目標は、「自ら学ぶ人」です。こちらは「あさしおごはん」という合い言葉で、道徳教育をずっと推進をしています。ありがとう、さようなら、失礼します、おはようございます、ごめんなさい、こんにちは、はいの返事、何々さん、何々くんと呼ぶということを、ずっと地域の合い言葉のようにして大切にしています。シニアスクールの会場として、地域に開かれた学校づくりを平成 26 年から推進しています。おじいちゃんやおばあちゃんが、白羽小学校にいっぱい来てくれて、子供たちを一生懸命見守ってくれています。自己表現が苦手な子供たちが多くて、主体性の育成が課題であると学校は捉えています。

第一小学校は、「花いっぱい、自分、友達、御一小」というのが学校教育目標です。市内でも児童数の多いマンモス校です。減少はしているというものの、子供たちの数は 634 人おります。職員の数も 66 人ということで、市内では 1 番大きな学校になります。転出入や外国籍の子供たちも多くて、たくさんの子供たちが学んでいますので、多様性というのがこの学校の大きな特徴かなと思っています。規範意識の醸成と個別支援の充実が課題です。

裏面に続きます。浜岡東小学校です。「心ゆたかな、たくましい子」という学校教育目標です。原子力発電所が学区の中にあって、エネルギー教育を推進しています。学校の働き方改革と地域に開かれた学校づくりを両立した学校経営を進めています。とても明るく素直で、他人との温かい関わりができる子供たちが多い学校です。一方、周囲の雰囲気にとっても流されやすく、自己肯定感の育成が課題であると学校は捉えています。

それから今日、来てくださっています伊村校長の学校ですが、浜岡北小学校。学校教育目標は「たくましさと思いやりで未来をつくる子」です。浜岡北小学校は、マーベルワレンちゃんという青い目の人形が、戦争を乗り越えてずっと残っていたということから、学校のシンボルとして平和と命を大切にす教育を進めています。1 学年 1 学級の小規模校で、30%の子供たちがスクールバスで通学をしていて、すごく学区が広い学校です。とても明るく伸び伸び生活できる子供たちが多いです。転出入も少ない学校です。ただ、やはりずっと固定化された人間関係の中で過ごすので、社会性の育成や表現力の育成が課題です。

浜岡中学校です。学校教育目標は「光り、輝く、学校」です。こちらは、ここからも見えますが、新校舎が出来て、子供も教職員も地域の皆さんも、新しい浜岡中学校を目指して、前向きな学校生活を送っています。池新田高校や地域や企業と連携をした、開かれた学校づくりを推進しています。とても明るく人懐っこい子供たちが多いです。一方、なかなか集団の中での自信が持てない生徒もいるため、主体性の育成が課題です。

学校組合立御前崎中学校です。学校教育目標は「思いやる」です。こちらは、先日の新聞報道でありましたけれども、長野県の王滝村立王滝中学校との交流が 59 年続いています。ですが、残念ながら、王滝中学校は今年度末で休校となるので、王滝中の子供たちが御前崎に来て行う活動はなくなりますが、学校としては、これまでの交流を大切にしたいということで、王滝中学校がなくなっても大滝村にスキーに行く行事については、継続していきたいと考えているようです。生徒は、海や山に囲まれた自然の中で伸び伸び過ごしているので、素直で優しい子供たちです。自己肯定感が低く、主体性の育成が課題です。

最後になりますが、園の再編については、令和 2 年 4 月 23 日に出しました「御前崎市における今後の乳幼児教育の方針」の中で、白羽幼稚園と白羽保育園のこども園化を考えています。再編の理由ですが、白羽保育園が老朽化していることと、白羽幼稚園の就園児が年々減少していて、学級数がどの歳児も 1 クラスになっているということです。また、0 から 2 歳児の入園希望が多

いので、保育のニーズが変化したことにより、園の再編を考えています。以上です。

○司会（教育総務課長 高田和幸） それでは、事務局側からの通り一遍になってしまいましたが、説明をさせていただきます。この中で、少しわかりづらい、これはどうやって読めばいいのかというところがありましたら、ここで御質問を受けたいなと思っておりますが、いかがですか。説明だけでするので、非常にわかりづらいのかなとは思いますが。

○検討委員 まだこれから話をすると思っておりますが、いつごろを目標に方法とかっていうのを考えて説明していくのか。詳細を知りたい。

○司会（教育総務課長 高田和幸） 今の時点で、すぐやらないといけないというレベルにはないと考えております。ただ、隣町の牧之原市が、先ほど言ったように2030年に地頭方小学校区が相良地区に行ってしまうと、御前崎中学校は、御前崎小学校と白羽小学校、2校が御前崎中学校に行くようになるのですが、それなのに、牧之原市の地内にある学校に通うということになってしまいますので、この問題は解決しなくてはいけないと考えています。両方の学校で、御前崎中学校というものを、例えばどこかにつくるというようなものも含めてありますので、2030年の話だというのは、念頭に入れながら話し合いをしなくてはいけないかと思っております。

ただ、1つですね、特に御前崎側の方ですけど、私も床屋なんかに行くと、「御中なくなって、浜岡中学校と一緒にいるだって」という話をよく聞きます。全くそんな話ないですから。それって誰が言い出したのかわからないんですけど、まるでまことしやかに、新しい学校ができたから、御中学生は何年か後に浜岡中学校行きますみたいな話を、床屋の大将も自慢げに話しています。担当しているのは私なのに、そんなの初めて聞いた話だけどという話になっていまして。何でそうになっているのか全く理由はわかりません。でも、全くそんな話合いを一切したことないですし、それは、もし地区で話が出たらそんなのデマだよという話をしてもらいたいと思うぐらいです。ただ、これからこの中で話し合っていくときに、そのほうがいいんじゃないという話がもしかしたら出てくる可能性もあるかもしれないですが、それはそれとして、今の時点では全くそんな話はありませんということでお話ししておきたいです。ただ、今の時点では、2030年にもし牧之原市が本当にその計画どおり進むのであれば、それに対応しなければいけないという事実はあります。よろしいですか。

ほかにはいかがですか。では、もし何かありましたら事務局へ直接、こういう場では聞きづらいということであれば電話でも構いませんし、お話をさせていただければ結構ですので、直接お伺いしていただければ結構です。

少し雰囲気は硬いので、柔らかくする意味も込めまして、この後の関係での支度をしたいので、5分ほど休憩をとりたいと思っておりますので、お願いします。

（休 憩）

4 教育環境を取り巻く現状と今後について

○司会（教育総務課長 高田和幸） 続きまして、会議を進めさせていただきたいと思っております。ここからは教育環境を取り巻く現状と今後についてということで、今日は静岡大学の武井先生、それから常葉大学の堀井先生にお越しいただいておりますので、お二方から、この話題についてお話を伺いたいと思っております。

最初に、常葉大学の堀井教授からお話をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○常葉大学教授（堀井啓幸）

[レジュメに沿っての講義]

○司会（教育総務課長 高田和幸） ありがとうございます。お話に対する御質問というものもあるでしょうが、武井先生のお話を伺ってからということにしたいと思います。続いて、武井先生をお願いします。

○静岡大学教授（武井敦史）

[レジュメに沿っての講義]

○司会（教育総務課長 高田和幸） それでは、今、2人の大学の先生からのお話を伺いましたけど、これについて何か、この際聞いておきたいなとかということがありましたらどうぞ。よろしいでしょうか。

それでは、今日は、皆様に情報を提供させていただく、それから、今こんなことですよという状態を感じていただければということで計画させていただきました。

次回、11月15日9時30分からまた行いますが、そのときは、1つの学校に、今、クラス数としまして、御前崎小学校は8クラス、1番小さい浜岡北小学校は6クラス、1番大きいところで、小学校だと第一小が18クラスというふうになっていますが、そのクラスの数、どのぐらいがいいのか。その辺は当然プロではないので、素人考えで結構ですが、やっぱりクラス替えをするためには2クラス以上あったほうがいいのか、今、学校行っている方からすると、いや全然問題ないよ、1クラスのほうがいいのかということもある。そういうところを少しお話しできればと思います。また、クラスの人数、1クラスに何人いるのかがいいのだろうということも少しお話ししたいなと思います。静岡県というか、御前崎市は1クラス35人です。36人になると2クラスになります。従いまして、今、18人、2クラスというところが学校の資料を見てもらうとありますが、御前崎小学校だと18人で、2クラスになっています。それは合わせて36人ですから、35人を超えていますので、2クラスになりますということになります。そうすると、18人だと、男の子、女の子10人程度ずつということで、先ほど言ったような問題が出てくるのかなということもありますが、逆に先生からすると目が行き届いていいのではないかなということも、保護者からするとあるかもしれない。ただ、これが3クラス欲しいよというと、18掛ける3では2クラスになってしまうんですね、35人以内になるので。クラスの最低人数がどんどんどんどん減って行って、例えば1クラス10人になる。10人がいいのかということ、やっぱり10人じゃ少ないよね、15人、20人欲しいよというようなところを、話し合いをしたい、皆さんの御意見を聞きたいと思っています。そんな難しい話ではなくて結構ですので、また皆さんの周りの方とお話をしてみていただければと思います。次回、よろしくお願いします。

それから、次回からは、この会につきましては、皆さんでもっと気軽に話ができる会にしていきたいと思っています。会の進行につきましては、堀井先生にお願いしていきたいと思っています。それで、皆さんからの御意見を伺いながら進めていくという形で進みたいと思いますので、よろしくお願いいたします。全体を通しまして、何か、御質問とかございましたらお受けしますが、いかがですか。よろしいでしょうか。

5 閉 会

○司会（教育総務課長 高田和幸） それでは、少し長くなりましたが、第1回の学校再編検討委員会を終了します。最後に互礼を交わしますので、御起立をお願いします。ありがとうございました。